様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １６ 日現在

機関番号：１５１０１
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2020
課題番号：１９Ｋ１２９４３

研究課題名（和文）ハイデッガー「黒ノート」におけるユダヤ問題の研究――形而上学批判を基点として

研究課題名（英文）The Jewish Problem in Heidegger's "Black Notebooks": Based on His Criticism of Metaphysics

研究代表者
田鍋　良臣（Tanabe, Yoshiomi）

鳥取大学・教育支援・国際交流推進機構・准教授

研究者番号：９０７６００３３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　900,000円

研究成果の概要（和文）：本研究ではまず、フィロンに関するハイデッガーの言及を手がかりに、いわゆる「存在史的な」思索におけるユダヤ教と形而上学との関係を解明することに取り組んだ。さらに、ユダヤ教をめぐる「黒ノート」の批判的な文言を形而上学批判の観点から分析するなかで、フッサールに対するハイデッガーの「攻撃」を「存在史的反ユダヤ主義」として非難するトラヴニーの見解が、妥当性を欠いたものであることが明らかになった。本研究の成果は、「黒ノート」をめぐる現在の研究状況を見直すきっかけになるだろう。

研究成果の学術的意義や社会的意義
本研究の意義は、ハイデッガーが、ユダヤ教と形而上学との関係をどのように見ていたのかを明らかにした点にある。これまで十分に検討されてこなかったこの問題は、「黒ノート」におけるユダヤ批判の内実を、ハイデッガーの思索に即して検討するうえで有効な手がかりとなる。さらに本研究は、トラヴニーが主張するいわゆる「存在史的反ユダヤ主義」の議論に、重大な問題があることを明らかにした。本研究の成果は、国際的に物議を醸している「ハイデッガー・アフェア」について、改めて考えるきっかけになるだろう。

研究成果の概要（英文）：This study elucidated the relationship between Judaism and metaphysics in Heidegger's "being-historical thinking" based on his references to Philo of Alexandria. Moreover, it analyzed Heidegger's critical discussion of Judaism in the "Black Notebooks" from the perspective of criticism of metaphysics, which indicated that Peter Trawny's condemnation of Heidegger's "attack" on Husserl as "being-historical anti-Semitism" was unjustified. The results of this study will constitute an opportunity to reconsider the current state of research on the "Black Notebooks."

研究分野：宗教哲学

キーワード：ハイデッガー　黒ノート　イデア　フィロン　レイシズム　反ユダヤ主義　トラヴニー　フッサール

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

(1)ハイデッガーの遺稿「黒ノート」が 2014 年に刊行されて以来、そこに記された「ユダヤ教（Judentum）」に関する批判的な文言が物議を醸している。問題となるのは、ユダヤ教（ユダヤ人、ユダヤ的なもの）が「計算的思考」に結びつけられている点である。「黒ノート」を編集したトラヴニーは、「黒ノート」刊行とともに『ハイデッガーとユダヤ世界陰謀の神話』を出版し、ハイデッガーのユダヤ批判には、伝統的な反ユダヤ主義やナチズムの影響が見られると指摘、それを「存在史的反ユダヤ主義」と名づけた[①]。以後、「黒ノート」をめぐる研究は、トラヴニーの主張を軸に展開され、多くの研究者がこれを支持する事態になっている。

(2)こうした状況のなか、研究代表者は、2015 年度～2016 年度、および 2017 年度～2018 年度の 2 回にわたり科学研究費助成事業（研究活動スタート支援、若手研究(B)）による助成を受け、「黒ノート」に関する研究を進めてきた。研究の結果、主に次の 3 点を明らかにした。①計算的思考に対する批判は、キリスト教の神の問題にかかわり、第一義的には、キリスト教（神学）を伝統的に規定してきた形而上学に対する批判である[②③]。②この批判はまた、間接的な仕方ではあるが、キリスト教の信仰経験を取り戻す契機にもなりうると考えられている[③]。③総長期の「メタポリティーク」を特徴づけるナチズムの人種主義に対する批判も、本質的には、形而上学的な人間理解に向けられたものである[④⑤]。

これらの研究成果から、問題とされるユダヤ教に関する批判的な文言についても、それが計算的思考に関係する以上、まずは形而上学批判の観点から理解するべきであり、またそれが、キリスト教批判と同型の構造をもつなら、そこにはキリスト教の場合と同様、ユダヤ教の信仰経験に対しても積極的なかかわり方を見出すことができるかもしれない、と考えるにいたった。

２．研究の目的

本研究の目的は、「黒ノート」のユダヤ教に関する批判的な文言が、第一義的には、歴史的（存在史的）な背景をもった形而上学批判であることを明らかにし、そこに、ユダヤ教の信仰経験を形而上学の支配的な展開から解放しうる可能性を探ることである。そのための方策として、まずは、フィロンに対するハイデッガーの見解に注目することで、存在史的思索におけるユダヤ教と形而上学との関係を明らかにする。そのうえで、これとの対比において、「黒ノート」に記されたユダヤ（‐キリスト）教の神やイエスに関する思想を検討する。本研究を通じて、現在の「黒ノート」をめぐる状況に一石を投じるとともに、ハイデッガーの知られざる宗教哲学的な思索に光をあてることを目指す。

３．研究の方法

本研究の目的を達成するために、研究代表者は、取り組むべき課題をユダヤ教と形而上学との関係の解明、およびユダヤ教と存在の思索との関係の解明の 2 つに分け、この区分に即して、以下の 4 つの研究課題を設定し、2019 年度は(1)と(2)を、2020 年度は(3)と(4)を遂行するという計画を立てた。

(1)ユダヤ批判が形而上学批判であることを見定める。
(2)フィロン解釈のうちに、ユダヤ教と形而上学との結びつきの歴史的な背景を探る。
(3)ユダヤの神と存在の思索との関係を、形而上学批判の観点から明らかにする。
(4)形而上学批判に依拠したイエス論を手がかりに、ユダヤ教擁護の可能性を探る。

４．研究成果

(1)2019 年度は、1930 年代半ばから 1940 年代の初めにかけて、主に演習でなされたフィロンへの言及に注目することで、ハイデッガーの存在史的思索におけるユダヤ教と形而上学との関係の解明に取り組んだ。この点に関する研究成果は、以下の 5 点にまとめられる[⑥]。

①ハイデッガーはユダヤ教とプラトン哲学を結びつけた点にフィロン宗教哲学の歴史的な意義を見る。
②ハイデッガーによれば、プラトンのイデアはフィロンを通じて創造神の精神のうちへと移り、さらにデカルトにおいて人間の精神のうちへ移動する。
③このようにイデアの所在は歴史的に変遷していくが、存在者が他の存在者（神、人間）による「作り物」とみなされ、原因‐結果関係のなかで説明されていることは一貫している。
④ハイデッガーは存在者の「作られた」というこのあり方を「作為性（Machenschaft）」と特徴づけ、そこに存在忘却の本質をなす「存在棄却（Seinsverlassenheit）」という存在

史的な事態を見る。
⑤このような形而上学批判はまた、「計算的思考」や「合理性」などとともに、「黒ノート」のユダヤ批判を構成している。

(2)2020 年度は、2019 年度の研究で明らかになったフィロンの存在史的な地位を、「黒ノート」における神やイエスに関する言及と対照させつつ、形而上学批判の観点からユダヤ批判の内実を分析し、ハイデッガーの思索のうちに、ユダヤ教の信仰経験を擁護する積極的な可能性を探る予定であった。だが、以下の 2 つの理由により、当初の計画を変更した。

①ハイデッガーの形而上学批判を追究していくなかで、1930 年代半ば頃の「黒ノート」のなかに、「形而上学」概念そのものの変容が認められることに気づいた。これは、「別の始源への移行」というハイデッガーの思索のモチーフにとって決定的なものであり、また形而上学批判を基点とする本研究にとっても、研究の成否にかかわる重要な論点である。そこで、当初の計画にはなかったが、2020 年度の前半に「形而上学」概念の変容過程を追跡し、その成果をまとめ、学会で発表することにした。だが、コロナ禍に関連した諸事情により、当該テーマについて予定していた学会発表を断念することとなった。

②ユダヤ批判の内実を形而上学批判の観点から分析していくなかで、「黒ノート」研究を主導するトラヴニーの主張には、重大な問題が含まれていることに気づいた。研究代表者は、同様の問題をすでに、ハイデッガーの総長期（1933-34 年）の人種論に即して明らかにしていたが[⑤]、事態は想定していたよりも深刻かつ広範囲におよび、1930 年代末以降の「存在史的反ユダヤ主義」をめぐる議論そのもののなかに見出すことができる。この点を問題として取り上げることは、本研究の説得力を高め、研究成果の正当性を確保するうえで有効であるだけでなく、「黒ノート」をめぐる現在の研究状況を転換する可能性を秘めている。そのため、2020 年度の後半は、研究計画を変更し、トラヴニーの「存在史的反ユダヤ主義」に関する検証作業を行うことにした。この点に関する研究成果は、以下の 3 点にまとめることができる[⑦]。

1. トラヴニーは、ハイデッガーの「人種」概念のうちに、ナチズムの人種主義とは異なる独自な人種思想を見ており、「存在史的人種主義」と特徴づけている。
2. トラヴニーは、「黒ノート」に記されたフッサール批判について、存在史的人種主義を内包する「存在史的反ユダヤ主義」とみなしているが、この見解は、テキスト読解上、妥当性を欠く。
3. ハイデッガーは当該箇所で、フッサールの現象学が、近代的な計算的思考に抗する試みとして重視する一方で、「哲学の歴史学的な伝承」を前提にしている点を批判している。これは、いかなる意味でも反ユダヤ主義的な見解とは言えず、まさしく存在史的な視座に基づいた形而上学批判として理解すべきものである。

本研究を通じて、存在史的思索におけるユダヤ教と形而上学との関係が明らかになり、他方で、トラヴニーの主張に対する疑義が生じた。後者について、研究代表者は、本研究で取り上げた点以外にも、複数の問題箇所を確認している。トラヴニーの見解が、ハイデッガー研究を席巻している現状を鑑みると、引き続き「存在史的反ユダヤ主義」の検証作業は必要となろう。この作業を通じて、トラヴニーの喧伝した「ハイデッガーの反ユダヤ主義」がいかに「黒ノート」の見解と異なっているのかが明らかになると思われるが、それは同時に、ユダヤ教をめぐるハイデッガーの宗教哲学的な思索に光をあてることにもつながる。研究代表者は、すでにいくつかの論点に関して検証作業を行っており、その成果は、2021 年度以降順次公表していく予定である。

＜引用文献＞

①Peter Trawny, *Heidegger und der Mythos der jüdischen Weltverschwörung*, Frankfurt am Main: Vittorio Klostermann, 2014
②田鍋良臣、ハイデッガー「黒ノート」の研究――「考察Ⅱ-Ⅵ」を中心に、哲學論集、第 62 号、2016、1-20
③田鍋良臣、ハイデッガーの信仰論――「黒ノート」に定位して、哲學研究、第 604 号、2019、54-92
④田鍋良臣、ハイデッガー・ナチズム問題再考――メタポリティークの視点から、大谷學報、第 97 巻第 2 号、2018、39-57

⑤田鍋良臣、ハイデッガーの人種論――総長期の思索を中心に、現象学年報、第 35 号、2019、67-75
⑥田鍋良臣、ハイデッガーにおけるユダヤ教の地位――「反ユダヤ主義」とフィロンについて、大谷學報、第 100 巻第 1 号、2020、45-64
⑦田鍋良臣、ハイデッガーはレイシストか――「存在史的反ユダヤ主義」を検証する（1）、鳥取大学教育支援・国際交流推進機構教育センター紀要、第 17 号、2021、109-119

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計2件（うち査読付論文　1件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　2件）

１．著者名 田鍋良臣	４．巻 第100巻第1号
２．論文標題 ハイデッガーにおけるユダヤ教の地位――「反ユダヤ主義」とフィロンについて	５．発行年 2020年
３．雑誌名 大谷學報	６．最初と最後の頁 45-64
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 田鍋良臣	４．巻 第17号
２．論文標題 ハイデッガーはレイシストか――「存在史的反ユダヤ主義」を検証する（１）	５．発行年 2021年
３．雑誌名 鳥取大学教育支援・国際交流推進機構教育センター紀要	６．最初と最後の頁 109-119
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 田鍋良臣
２．発表標題 ハイデッガーにおけるユダヤ教と形而上学の問題
３．学会等名 日本宗教学会第78回学術大会
４．発表年 2019年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関